なでしこ調査士誕生！？

本稿は、富山県土地家屋調査士会会報「らんどまーく　1月号[2012年度]」に掲載されたものを転載させていただいております。

自由研究の全国小・中学生作品コンクール

本吉さん（�川小2）が最高賞

児童生徒の一組んだ自由研究を本と模造紙に まとめた、通学路のコンクリートに打たれた金属のびょうやプレートについて、呼士自由研究を対象とする「全国小・中学生作品コンクール」の生活科部門で、県内から本吉葉芯さん（富山市婦川小学校2年）＝写真＝の作品「じめんのボタンのナゾ いちばんえらいボタンをさがせ」が最高賞の文部科学大臣奨励賞に選ばれた。

地家調査士会などを訪ね、土地の境界や街区基準点であることを調べた。「写真の撮り方や字の書き方を工夫し、頑張ってよかった」と話している。

コンクールは子どもの文化・教育研究所（名古屋）が主催。生活科の他、社会科、英語、パソコンなど7部門を設け、合計で約2400点の応募があった。本吉さんは、夏休みに取り

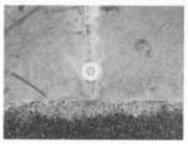
子供のころは、目に入るすべての物が、新鮮な輝きと驚きに満ちていたのかもしれない、そう感じさせてくれる出来事がありました。

平成23年8月10日、夏休みの自由研究の取材をしたいからと、小さな小学２年生の女の子と付き添いでそのお父さん、お祖父さんが調査士会館へ来館されました。

女の子はある日の下校途中、道路の隅に、赤い笠を被った金属の釘が埋まっている事に気付きました。帰路の友に指折り数えたその釘は41個にも上ったそうです。

赤や黄や緑や金色の物。その笠の種類の多さも相まって、女の子の目には珠玉のように映っていたのかもしれません。

その釘が、筆界点、トラバー点、街区基準点を設置した金属鋲である事を文脈から、土地家屋調査士の皆さんはもうお気づきだと思います。



金属鋲と同時にみつけた金属のプレートには、「富山県土地家屋調査士会」と印字されている。なにか手がかりになるに違いないと、お父さんの力を借りて当会へと辿りついたそうです。

私たちは、以下のような質問を受けました。

・どういう目的をもった物なのか　・色の違いは？　・いつごろからあるものなのか　・どのようにして埋めているのか。

メモを取りながら、徐々に疑問が氷解していく様子、時折見せるはにかんだ笑顔は我々が用意した教科書通りの回答とは不釣り合いなほど輝いて見えました。

こんな小さな女の子が我々の設置した境界標に興味を持ち、疑問をぶつけてくれた事、娘の抱いたその疑問に何とか答えてあげようと努力するお父さんの直向きな姿に、私たちは心の角が取れていくかのような感覚を覚えました。

また、同時に境界標を設置することの責任の重さを痛感し、未来に誇れる仕事を残すための研鑽を怠ってはならないと深く決意した一日となりました。

写真には納められませんでしたが、学校から自宅までの帰途に見つけた境界標はデジカメで撮影し、ファイルに。さながら「調査報告書」の様です。

松下幸之助はこう言ったそうです。「学ぶ心さえあれば、万物すべてこれ我が師」。

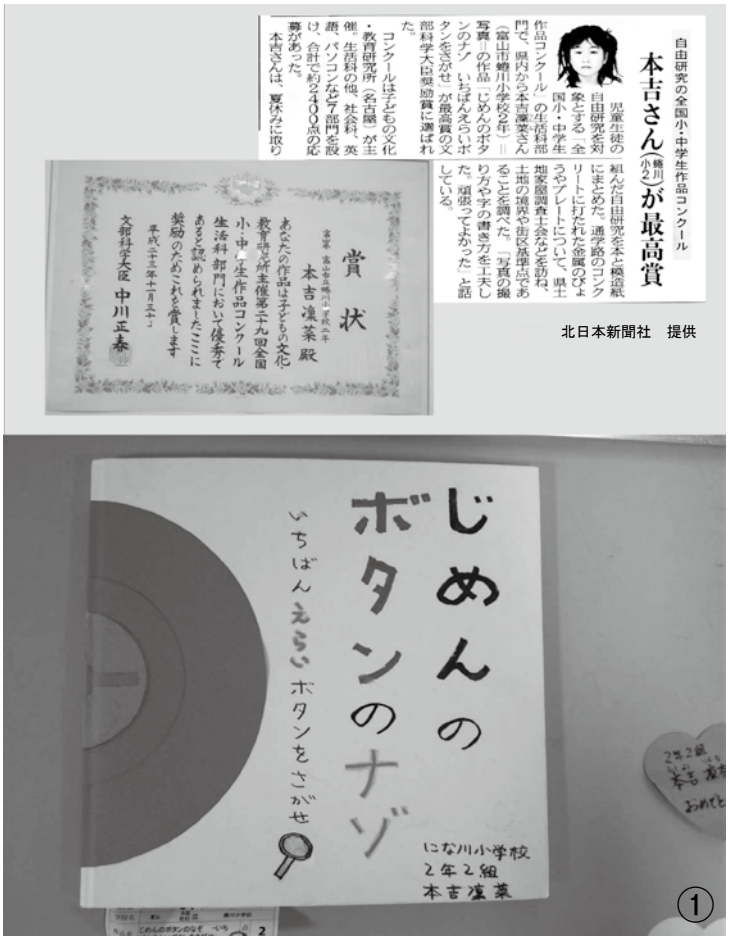
小さな女の子の姿に経営の神様の言葉を重ねてしまいました。

広報担当理事　高倉　健

後日譚

先日、とても喜ばしいニュースが舞い込んできました。

なんと、この自由研究の作品が第29回全国小中学生作品コンクール生活科部門において文部科学大臣奨励賞に輝きました。



自由研究の全国小・中学生作品コンクール

本吉さん（鳴川小2）が最高賞

県軍生徒の自由研究を対象とする「全国小・中学生作品コンクール」の生活科部門で、県内から本吉凜菜さん（富山市鳴川小学校2年）＝写真＝の作品「じめんのボタンのナゾ いちばんえらいボタンをさがせ」が最高賞の文部科学大臣奨励賞に選ばれた。

コンクールは子どもの文化・教育研究所（名古屋）が主催。生活科の他、社会科、英語、パソコンなど7部門を設け、合計で約2400点の応募があった。

本吉さんは、夏休みに取り組んだ自由研究を本と模造紙にまとめた。通学路のコンクリートに打たれた金属のびょうやプレートについて、県土地家屋調査士会などを訪ね、地家屋調査士会などを訪ね、土地の境界や街区基準点である。

（富山市鳴川小学校2年）＝写真＝の作品「じめんのボタンのナゾ いちばんえらいボタンをさがせ」が最高賞の文部科学大臣奨励賞に選ばれた。

コンクールは子どもの文化・教育研究所（名古屋）が主催。生活科の他、社会科、英語、パソコンなど7部門を設け、合計で約2400点の応募があった。

本吉さんは、夏休みに取り組んだ自由研究を本と模造紙にまとめた。通学路のコンクリートに打たれた金属のびょうやプレートについて、県土地家屋調査士会などを訪ね、土地の境界や街区基準点である。

賞状

本吉凜菜殿

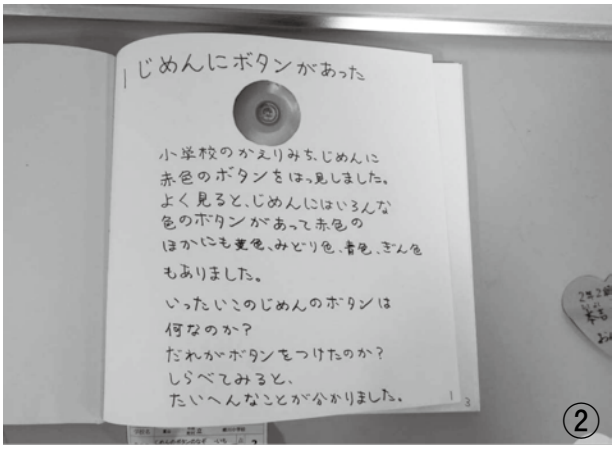
あなたの作品は子どもの文化・教育研究所主催第二十九回全国小・中学生作品コンクール生活科部門において優秀であると認められましたここに奨励のためこれを賞します

平成二十三年十二月三十一

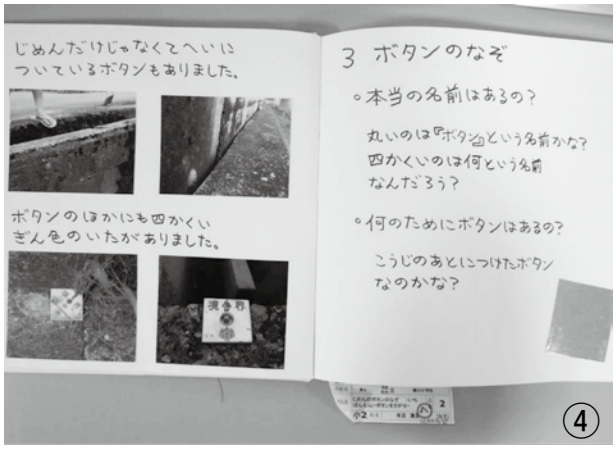
文部科学大臣 中川正春

北日本新聞社　提供

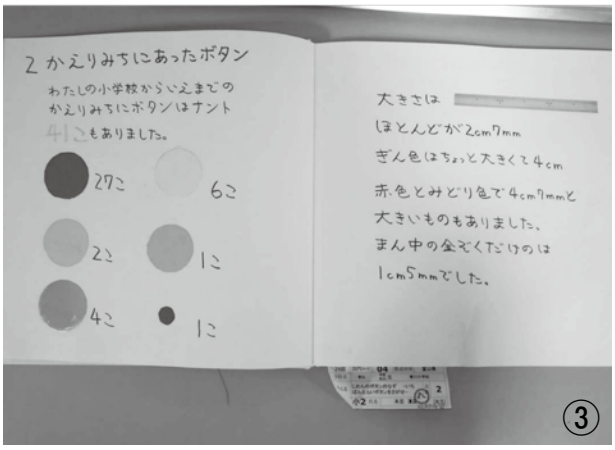
①



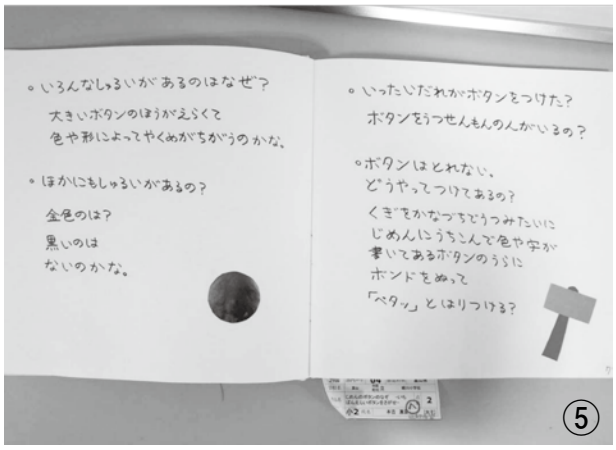
②



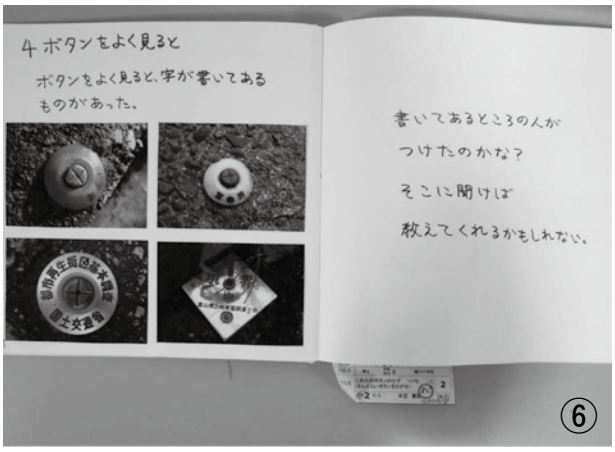
④



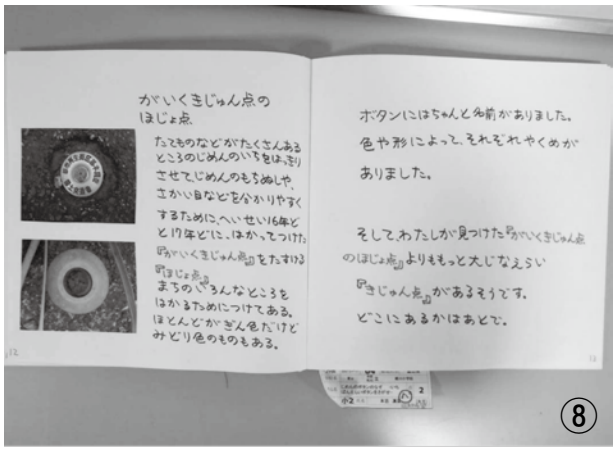
③

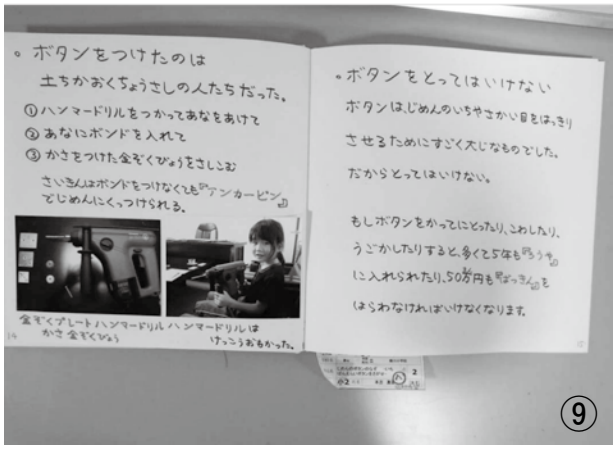


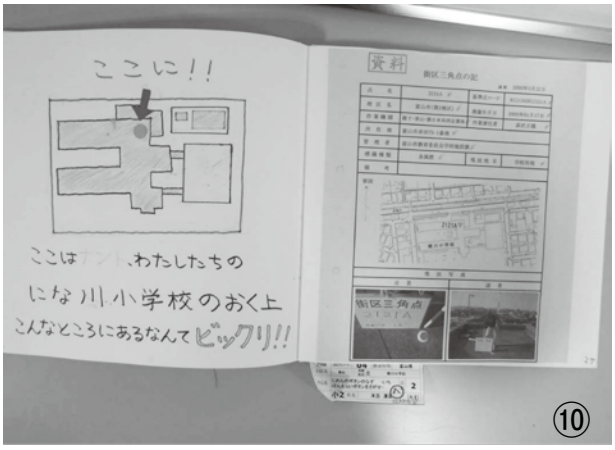
⑤

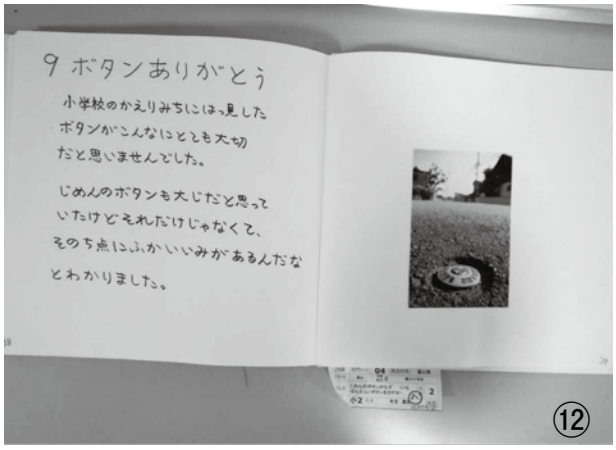

4 ボタンをよく見ると
ボタンをよく見ると、字が書いてあるものがあった。
書いてあるところの人がつけたのかな？
そこに聞けば教えてくれるかもしれない。
⑥

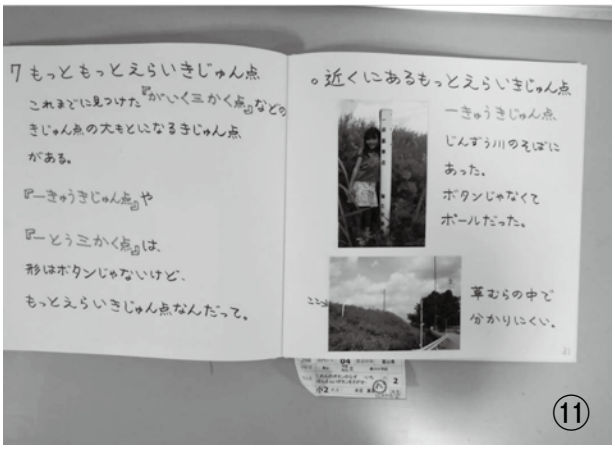
5 土ちかおくちょうさし会と山えきのきたがわにあった。
おねがいしたら3人の『土ちかおくちょうさし』の人がいろんなことを教えてくれました。
見たことがあるマーク
◦ホントの名前とやくめ
金ぞくびょう
じめんのきょうかいをしめすもの。じぶんの土ちゃたんの土ちがどこまでかわかるようにしてある。
金ぞくのふくぶのまん中の点がきょうかい点でそのまわりに分かりやすいように赤色のかさをつけてあるみどり色や水色のかさは下にとん棒や水どうがあることも分かるようにしてある。
金ぞくプレート
金ぞくびょうと同じように きょうかいの点や線が分かるようにしてある。
やじるしの先っぽがきょうかい点
⑦

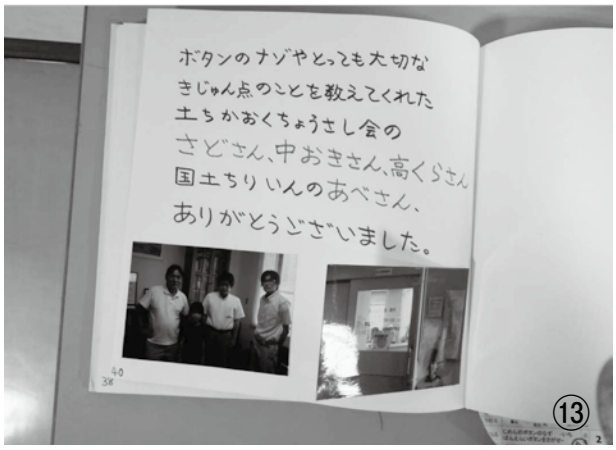

がいくきじゅん点のほじょ点
たくものなどがたくさんあるところのじめんのいちをはっきりさせてじめんのもちぬしや、さかい目などを分かりやすくするために、へいせい16年ごろ、ほかってつけた『がいくきじゅん点』をたすける『ほじょ点』
まちのいろんなところをはかるためにつけてある。
ほとんどがぎん色だけどみどり色のものもある。
ボタンにはちゃんと名前がありました。
色や形によって、それぞれやくめがありました。
そして、わたしが見つけた『がいくきじゅん点のほじょ点』よりももっと大じなえらい『きじゅん点』があるそうです。
どこにあるかはあとで。
⑧


◦ボタンをつけたのは土ちかおくちょうさしの人たちだった。
①ハンマードリルをつかってあなをあけて
②あなにボンドを入れて
③かさをつけた金ぞくびょうをさしこむ
さいきんはボンドをつけなくても『アンカーピン』でじめんにくっつけられる。
金ぞくプレート かさ 金ぞくびょう
ハンマードリルはけっこうおもかった。
◦ボタンをとってはいけない
ボタンは、じめんのいちやさかい目をはっきりさせるためにすごく大じなものでした。
だからとってはいけない。
もしボタンをかってにとったり、こわしたり、うごかしたりすると、多くて5年も『ろう』に入れられたり、50万円も『ばっきん』をはらわなければいけなくなります。
⑨


ここに!!
ここは、わたしたちのにな川小学校のおく上こんなところにあるなんてビックリ!!
資料
街区三角点の記
⑩


9 ボタンありがとう
小学校のかえりみちにはっ見したボタンがこんなにとても大切だと思いませんでした。
じめんのボタンも大じだと思っていたけどそれだけじゃなくて、そのち点にふかいいみがあるんだなとわかりました。
⑫


7 もっともっとえらいきじゅん点
これまでに見つけた『がいくミかく点』などのきじゅん点の大きといなるきじゅん点がある。
『一きゅうきじゅん点』や『一とうミかく点』は、形はボタンじゃないけど、もっとえらいきじゅん点なんだって。
◦近くにあるもっとえらいきじゅん点
一きゅうきじゅん点
じんずう川のそばにあった。
ボタンじゃなくてポールだった。
草むらの中で分かりにくい。
⑪


ボタンのナゾやとっても大切なきじゅん点のことを教えてくれた土ちかおくちょうさし会のさどさん、中おきさん、高くらさん国土ちりいんのあべさん、ありがとうございました。
⑬

さわやかな風に吹かれた心地です

日本土地家屋調査士会連合会　副会長　　岡田　潤一郎

社会全体も土地家屋調査士の周辺環境もなかなか明るい話題に乏しい昨今でしたが、富山県土地家屋調査士会により、小学生の子供さんから私たちにもう一度勇気と元気をいただける、そんな、心あたたまる出来事を紹介いただきました。

私たちも小さい時は、例外なくみんな子供でした。好奇心に満ち満ちた目を輝かせていた日々がありました。大人社会の煩雑さと制約のなかで、いつの間にか業界常識に浸かりきってしまった我が身を振返ることのできた、本当に素敵な話題ですので、全国の土地家屋調査士さんに発信させていただきました。